

チリ共和国サンティアゴ大学における実践報告 —ゲストスピーカーの講演をめぐる諸活動—

林 雅子

Practice report in University of Santiago of Chile: activities related to the lecture of a guest speaker

Masako Hayashi

要旨

本稿はチリ共和国サンティアゴ大学で実施したゲストスピーカーの講演をめぐる諸活動の実践報告である。サンティアゴ大学では学生は5年間日本語と英語を勉強し、卒業時には日本語・英語翻訳応用言語学の学位と“Traductor con mención en inglés y japonés（日本語-英語翻訳家）”の称号が授与される。しかし、日本語を学んだだけでは翻訳等の業務を行うには不十分であり、経済や外交などの社会的知識も必要である。また、実社会ではどのようなスキルが求められているのかを知るためにも日系企業や組織等の社会人の方と交流する機会も必要である。そこで、経済関係の現場で働く方をゲストスピーカーとして招聘し、日本とチリの経済関係についての講演会を行った。講演の機会を十分に活かすために事前活動と事後活動に時間をかけ、講演当日は学生全員が質問し、その後、茶話会を開いて交流した。チリと日本の経済関係の現状を学び、学んだ日本語を使えただけでなく、将来どのような知識やスキルを習得することが必要なのかを知る機会となった。

Abstract

This paper is a report on educational activities related to the lecture given by a guest speaker at the University of Santiago of Chile, where students study the Japanese language for five years, and are later awarded the title of “translator” upon graduation. However, their competence as translators/interpreters is not yet sufficient to become fully qualified professionals because a specialized knowledge of economy, diplomacy and other areas is also necessary, yet it is only possible to acquire such theoretical and practical skills through interaction with members of Japanese companies and organizations as well as through regional exchange. For that reason we invited a guest lecturer, who worked in the field of economics, and asked him to deliver a lecture on economic relations between Japan and Chile. Preparatory activities and post-activities were conducted so that the students could make the best of the lecture. They could later ask questions and interact with the guest lecturer in an informal gathering, which gave them an opportunity to consider what skills might be required of them in their future careers.

1. はじめに

チリ共和国立サンティアゴ大学は、1993年に選択科目としての日本語講座が設置され、日本政府の支援のもと1995年に人文社会学部言語学学科に5年制の日本語・英語翻訳課程が開設された南米スペイン語圏で唯一の日本語を専門に学べる大学である。5年次には企業へのインターンシップ等の社会における”practica(実習)”が必修であり、卒業時には、“Licenciado en lingüística aplicada a la traducción con mención en inglés y japonés（日本語・英語翻訳応用言語学）”の学位と、スペイン語日本語翻訳とスペイン語英語翻訳のための”Traductor con mención en inglés y japonés（日本語-英語翻訳家）”の称号が授与される。

しかし、日本語を学んだだけでは翻訳等の業務を行うには不十分であり、経済、外交などの日本語以外の知識も必要である。それにもかかわらず、経済などの他分野の授業を履修しても卒業単位として認定されないため、大学で専門以外の分野を学ぶ機会が少ない。

また、日系企業や組織の方々と交流することで実社会ではどのようなスキルが求められているのかを学生が考える機会や、企業の方々に学生のことを知ってもらうための地域交流の機会も必要である。しかし、チリに留学している日本人学生や駐在員の配偶者との会話ワークショップは行なわれているが、5年次の実習先決定以前に、主な実習先である日系企業や組織等、現場で働く社会人の方と交流する機会は稀である。

そこで、経済関係の現場で働く方をゲストスピーカーとして招聘し、日本とチリの経済関係についての講演会を開催することにした。1回目の2008年にはジェトロサンティアゴ事務所所長に依頼し、チリにおけるジェトロの活動やジェトロサンティアゴの主要プロジェクト等をテーマとした講演会を開催した。2回目の2009年には50以上の日系企業連合である日智商工会議所会頭に依頼し、日系進出企業の動向とビジネスにおける留意点及びチリのアグロインダストリーの魅力をテーマとした講演会を開催した。

講演の機会を十分に活かすために事前活動に時間をかけた。講演当日は学生全員が質問し、講演会終了後の茶話会ではテーマ以外の質問をして交流した。その後、学んだ知識と語彙の定着を促すために、レポート作成、口頭発表、ディスカッション、口頭表現試験等の事後活動を行った。以上のゲストスピーカー招聘をめぐる諸活動を報告することが本稿の目的である。

2. 活動報告の背景

筆者は2008年1月から2010年1月まで独立行政法人国際交流基金の日本語教育専門家としてチリ共和国サンティアゴ大学で日本語教育に従事した。その間2回に渡り、ゲストスピーカーを招聘して講演会を開催した。任期終了後の2010年4月より千葉大学国際教育センターで非常勤講師として留学生を対象とした日本語教育を担当した。2012年8

月より依頼を受けて再度サンティアゴ大学で日本語教育に従事したが、前回の任期終了後も引き続き日智商工会議所会員である日系企業や組織等の社会人の方々との交流活動が実施されており、筆者も再び担当教員として当該活動に参加した。

チリから帰国後 2015 年 4 月より再び千葉大学国際教育センターで留学生を対象とした日本語教育を担当している。2015 年 9 月にはペルー日系人協会の主催で南米 8 カ国の日本語教育機関の代表者が集まり、南米スペイン語圏に共通する問題を共有するために初の「南米スペイン語圏日本語教育連絡会議 2015」が開催された。その際、南米スペイン語圏で唯一の高等教育機関で日本語が専門に教えられているサンティアゴ大学の教員の話を知りたいという声が寄せられたが、筆者は既に帰国していて出席せず、実践例を話すことができなかった。また、海外の他の地域の大学教員からゲストスピーカーを招聘する活動を行いたいと思っているがなかなか困難であるため、どのように実践したのか教えてほしいという声が寄せられた。そこで、サンティアゴ大学での実践例を報告し、南米スペイン語圏のみならず同じような状況にある海外の大学の参考となればと思ったことが本報告書を作成するに至った理由である。

またこの活動について 2011 年 1 月に上智大学で上田博人先生の「イスパニア語教育法」の受講生を対象に発表する機会を得た。受講生にアンケート調査を行ったところ、「学生のうちから学んだ言語が実社会でどのように生かされるのか、実社会ではさらにどのような技能やスキルが求められているのかを早い段階で知ることは極めて重要で、このような活動はあった方がいい」という当該活動への肯定的意見が多数を占めた。このことは海外のみならず日本における言語教育での応用の可能性を示唆している。

以上の経緯により、この度千葉大学国際教育センターの『国際教育』に投稿するに至った。

3. 活動 1 事前活動

この活動は 5 年次のインターンシップの前学年である 4 年生を対象に実施した。サンティアゴ大学日本語・英語翻訳課程は非漢字圏であることに加え、ポルトガル語や英語も学ぶカリキュラムであるため、日本語の学習到達度が高くはない。卒業時に N2 レベルへの到達を目指すものの到達できない学生も多い。また、4 年生のこの段階では N3 に到達していない学生も多い。そのため、十分な準備なくしては講演内容や質疑応答の理解が難しいのが現実である。ゲストスピーカーを招聘して講演会のみを行ったら、次のような事態が生じ、せっかくの機会を十分に活かさない可能性が高い。

1. 学生は専門語彙が理解できないので講演の内容が理解できない。
2. 専門的な内容が理解できないと質問することができず、聞くだけで終わってしまう。
3. 質問したいことがあっても、適切な語彙や表現が分からないために自信を持って質問

することができない。

4. その場で質問を考えると、他の学生と質問が重なってしまって質問ができない可能性がある。
5. ゲストスピーカーにとって即座に平易な語彙を選んで応答することは困難であるため、学生が応答を理解しにくい。

そこで、以上の点を考慮して、講演の前に次に述べる事前活動を行った。

まず、ゲストスピーカーと事前にテーマや内容について打ち合わせをし、その際に学生のレベルについて伝え、平易な語彙の選択を依頼した。

次に、事前に発表資料の送付を依頼し、難易度の高い語彙をリストアップして、学生が分担して日本語スペイン語対訳の語彙リストを作成した（林 2009a）。特に重要な語彙やキーワードを覚えるよう学生に指示し、語彙クイズとして出題して定着を確認した。

そして、語彙リストを使用しながら発表資料を授業内で一緒に読んで内容理解を促した。一人3問ずつ質問を作成し、聞きたい順番に並べて提出するよう指示した。日本語を添削した上で、質問が重ならないように調整し、一人当たり少なくとも一つの質問ができるよう割り当てて、その質問を覚えて言えるように促した。

さらに、学生からの質問をゲストスピーカーに事前に伝え、できるだけ平易な言葉での応答を依頼した。

4. 活動2 講演会・茶話会での活動

講演会は4年生の口頭表現の授業時間に実施し、実習学年である5年生にも参加を呼び掛けた。事前に講演内容を知ってしまうと当日興味を持って聞くことができないのではないかと懸念されたが、全学生が熱心に聞き入っていた。過去の講演会では、理解できない一部の学生達が途中で聞かなくなってしまうことがあったが、今回は講演内容を事前に学習して理解可能であったため、全学生が聞くことにつながったものと考えられる。

その後、質疑応答の時間には全ての学生が質問をした。チリ人は外国語に対する苦手意識が強く、外国語で自主的に質問をすることは稀であり、過去の講演会でも、学生から積極的に質問が出ることはなかったが、今回は事前に準備し、添削された日本語であるため皆が自信を持って質問していた。ゲストスピーカーに事前に質問を伝えていたため、より平易な日本語での応答が可能となり、学生にも理解できたようである。学生から「自分が質問したことにやさしく答えてもらってうれしかった」というコメントが寄せられた。

講演会の後に茶話会を開催し、テーマ以外の質問をして交流する機会を設けた。学生からは、日本語を使った仕事はあるか、求められる人材はどのような人材か、卒業までにどのようなことを身につければいいかなどの質問が出た。ゲストスピーカーの大学時代について学生が質問をしたり、逆に、学生が関心を持っていることについてゲストスピーカー

から質問をされたりするなど、親しく交流する機会となった。

講演会、茶話会には言語学学科長、副学科長、翻訳課程主任、日本語講座コーディネーター、日本語担当講師等大学側のスタッフにも参加を呼び掛け、当該活動の意義と重要性に対する理解を促し、筆者の任期終了後も引き続き実施してもらえるよう依頼した。

5. 活動3 事後活動

講演終了後には、講演から学んだことや自分の意見についてレポートを作成する課題を課した。その際、自分がどのような質問をして、どのような応答だったかを記入させ、質疑に対する応答を的確に理解しているかを確認したところ、学生達はきちんと応答を理解していた。事前に質問をゲストスピーカーに提示して平易な言葉での応答を依頼したことや、語彙リストを作成し、語彙クイズで覚えていたことが役に立ったようである。

レポート作成後の授業では、学んだことについて口頭で発表させ、自分の意見についてのグループディスカッションを実施した。新たに身に付けた語彙を使って学習した知識や意見を表現する機会を設けることで、語彙や知識のさらなる定着を促した。

さらに、口頭表現の試験では、講演で学んだこと、自分の意見、このアクティビティに対する感想と今後の希望等について一対一のインタビュー形式で質問した。事前活動、当日の活動だけでなく、レポート作成、口頭発表、グループディスカッション等の事後活動で何度も繰り返し語彙や表現を学習したため、学生達はみな流暢な日本語で学習内容、自分の意見や感想を述べた。1年前には流暢に話す学生は極少数であったが、多くの学生の口頭表現能力も格段に伸びた。

6. おわりに

ゲストスピーカーの講演を聞き、質疑応答時に質問をし、茶話会で会話することは、学んだ日本語を公式の場で使えただけでなく、学生が希望する社会人と話をする貴重な機会となった。会話ワークショップなどで日本人留学生と交流する機会はあるが、チリで仕事をしている社会人の方々と会話する機会の実習まで極めて稀であり、今回初めて会話したという学生がほとんどであった。現在、特に海外では日本語だけでいても仕事にはつながらず、日本語以外の分野の知識や能力が求められている中で、自分の日本語力や知識の現状を知り、将来どのような知識やスキルを習得すべきかを考える良い機会となった。

経済を始め、日本事情に関する知識や考察を深めただけでなく、日本語学習の点からも、語彙力、聴解力、口頭表現能力の向上が見られた。また、茶話会での交流を通して、敬語やマナーを実践する機会ともなった。

学生からは「いつもは、文法や漢字を必死に勉強している私達は他分野の講演に参加する機会はありません。この講演を期待して待っていました」「翻訳者は幅広い知識を

得るためには様々な分野を勉強しなければいけません。今回は、チリと日本の経済関係についてとても勉強になりました」などをはじめとして、またぜひ実施してほしいとの意見が多数寄せられた。講演終了後の茶話会でゲストスピーカーの大学時代の話が聞けてよかった、親しく交流できてよかったとの声も多数あがった。

ジェトロサンティアゴ事務所所長からは、とてもいい活動であり、学生の質問のレベルが高いことに驚いたという評価の言葉が寄せられた。また、日智商工会議所会頭からも、とてもいい活動であり、学生のマナーがいいのに感心したとのコメントが寄せられた。

2008 年と 2009 年の当該活動が発端となり、日智商工会議所会頭の発案と関係者の尽力により、現在は”Convivencia (親睦会)”という形で日智商工会議所会員である日系企業や組織等の社会人の方々とサンティアゴ大学学生との地域交流が続いている。筆者は 2 度目の赴任時に親睦会のコーディネーターを担当した。グループに分かれていくつかの活動をするが、各グループには日本人とチリ人が均等に分かれて歓談・交流するため、学生が質問できるだけでなく、学生を知ってもらうための良い機会となっている。海外では日系企業のセミナーや OB、OG 訪問の機会がほとんどないため、このような機会は将来日本語を使った仕事を考える際に非常に有意義である。日智商工会議所会頭と関係者並びにジェトロサンティアゴ事務所所長に感謝の意を表して報告を終えたい。

謝辞

日智商工会議所森泰憲会頭、ジェトロサンティアゴ事務所竹下幸治郎所長、上田博人先生に心より御礼申し上げます。

参考文献

阪上彩子 (2015) 「南米スペイン語圏日本語教育連絡会議 2015」資料

〈<https://nihongoperu.files.wordpress.com/2015/09/e887aae5b7b1e7b4b9e4bb8b.pdf>〉(参照 2016-1-31)

阪上彩子 (2015) 「南米スペイン語圏日本語教育連絡会議 2015」

〈<https://nihongoperu.files.wordpress.com/2015/09/afiche-reunion-de-paises-habla-hispana.jpg>〉(参照 2016-1-31)

林雅子 (2008) 「世界の日本語教育の現場から (国際交流基金日本語専門家レポート) チリにおける日本語教育」

〈<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/dispatch/voice/voice/chunanbei/chile/2008/report01.html>〉(参照 2016-1-31)

林雅子 (2009a) 「メディア教材を使用した学生主体の教室運営—学生のモチベーション向上のために—」 「第 1 回チリ共和国日本語教育セミナー」講演資料

林雅子 (2009b) 「第 1 回チリ共和国日本語教育セミナー」『日本語教育』142 号 日本語教育学会編「海外の学会から」

林雅子 (2009c) 「世界の日本語教育の現場から (国際交流基金日本語専門家レポート) チリ共和国日本

チリ共和国サンティアゴ大学における実践報告－ゲストスピーカーの講演をめぐる諸活動－

語教育事情」

〈<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/dispatch/voice/voice/chunanbei/chile/2009/report01.html>〉(参照 2016-1-31)

林雅子 (2010) 「チリ共和国サンティアゴ大学における日本チリ経済関係講義と ORAL 指導－経済関連現場で働く方々をお招きした講演会及び茶話会の地域交流を通して－」『ICJLE 2010 年世界日本語教育大会』発表資料